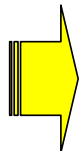




(実験開始から531日経過)

区画（除草剤）において、7月15日に確認したセイタカアワダチソウが、2 m程に生長しています。

2011/7/15 撮影



区画（セメント系）において、新たな草（カラスビシャク）が生えてきました。

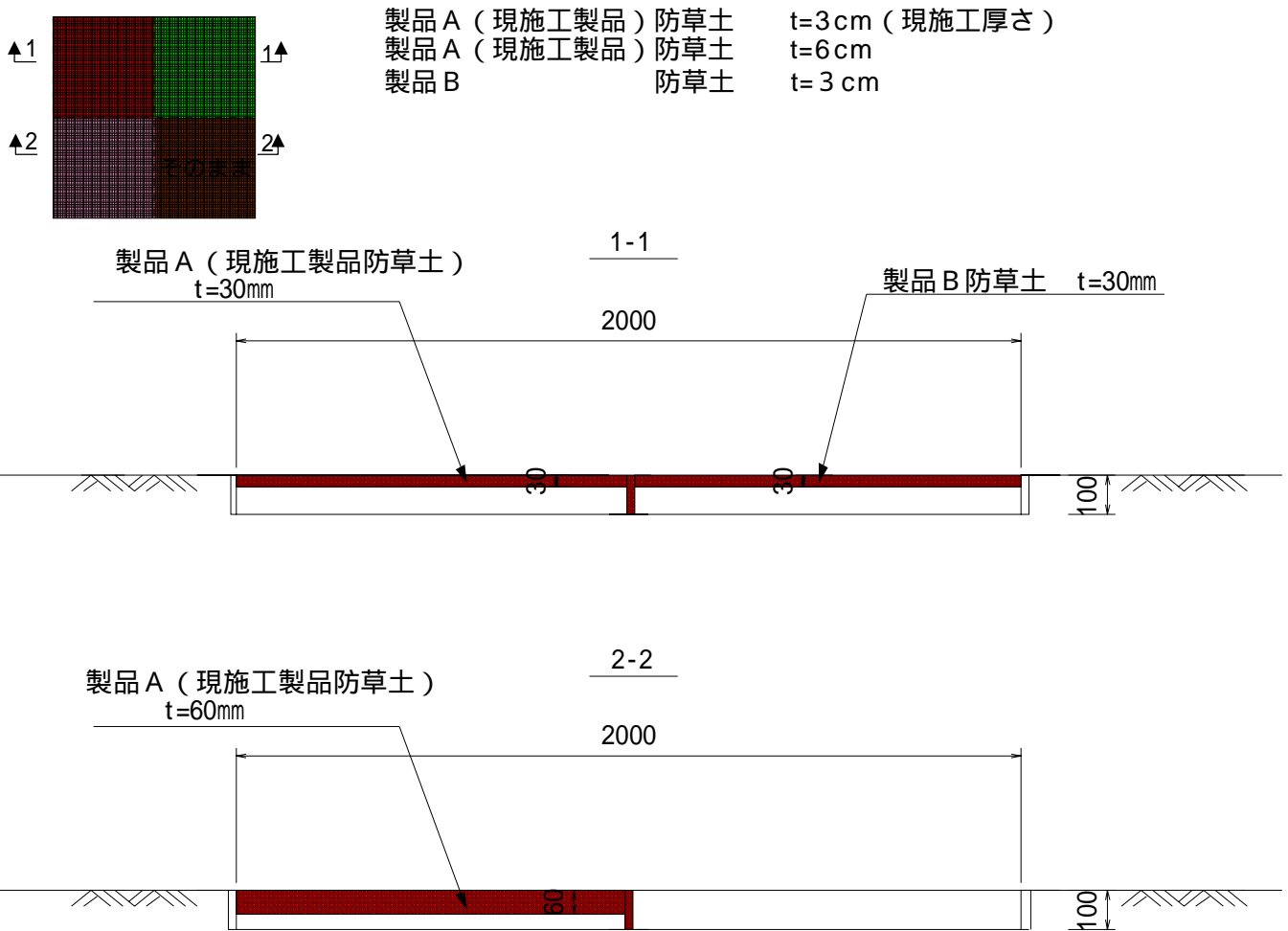


区画（クラッシャーラン）において、施工端部から、草（シロツメクサ：いわゆるクローバー）が生えてきました。



【現状】 平成22年3月22日より研究を開始してから500日が過ぎ、草が生えてきた区画もあればいまだに生えていない区画も複数ある状況である。
 また、区画（セメント系）において、今年1月観察時より硬度が低下している。
 化学的な分析を行ったが、原因はつかめない状況である。（「8月22日観察記録」参照）
 この現象が今回の施工に限った問題によるものか、セメント系改良土における一般的な現象といえるのかを検証する必要がある。

【今後の展開】区画（セメント系）において、現状の区画を4分割し、施工厚さや材料の種類をかえ散水養生に十分留意して再設置することとする。



【研究期間】研究期間の平成24年3月31日まで残り半年強となったが、2年の研究期間では、耐用年数等十分に評価・考察できない部分がある。また、区画 に関しては今回の再設置で結論がでない可能性がある。
 そこで、2年間での研究の成果は取りまとめを行ったうえで、耐久性などの検証に期間を有するものについては研究期間を延長して、来年度以降も継続して研究を行うこととする。